

**東陽テクニカ、2020年9月期第1四半期決算発表  
前年同四半期比 減収・減益も通期業績予想は変更なし  
5G\*ビジネスは堅調、受注も前年同四半期比増**

\*5G：第5世代移動通信システム

(株)東陽テクニカ（8151：東京都中央区 五味勝社長）は、本日（2020年2月3日）午後2時、TDnetにおいて2020年9月期第1四半期の決算を発表しました。

**【概要】**

売上高は43億7千8百万円（前年同四半期比△13.7%）、営業損失は3億2千7百万円（前年同四半期は7千1百万円の営業利益）、経常損失は2億8千1百万円（前年同四半期は2千6百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4千万円（前年同四半期は2千6百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）でした。

通期業績予想、及び中期経営計画につきましては変更ありません。

**【売上動向】**

国内取引高は41億4千6百万円（前年同四半期比△9.9%）で、海外取引高は2億3千1百万円（前年同四半期比△51.4%）でした。

セグメント別では、情報通信／情報セキュリティ分野では、5Gや高速イーサネットに対応したネットワーク性能試験装置、及び自社製品SYNESISの販売が堅調に推移し、またEMC／大型アンテナ分野では、国内外の自動車関連の大型システムの販売が好調で売上が大幅に増加しました。機械制御／振動騒音分野においては自動車会社の投資が自動運転開発と電動化開発にシフトしたことによる振動・騒音などの従来の研究開発分野への投資縮小、物性／エネルギー及び海洋／特機分野においては納入遅延の影響により売上が減少しました。

**【受注動向】**

情報通信／情報セキュリティ分野で、引き続き5Gに対応する大型試験装置の複数受注や、EMC／大型アンテナ分野の人工衛星観測システム向け大型アンテナの追加受注などが好調でした。一方、機械制御／振動騒音分野の振動・騒音関連、物性／エネルギー分野の電源関連や、ライフサイエンス／マテリアルズ分野の新しい電子顕微鏡ビジネスは低調でした。

その結果、受注高は63億6千1百万円で前年同四半期に比べ1億9千6百万円増（+3.2%）となりました。

【受注残動向】

受注残は、94億5千7百万円で前年同四半期に比べ4億6千7百万円増（+5.2%）となりました。

【売上総利益率】

売上総利益率は、42.9%で前年同四半期に比べ1.6ポイント低下し、売上総利益は18億7千6百万円（前年同四半期比△16.8%）となりました。売上総利益率の低下は、機械制御／振動騒音分野における売上の減少が要因です。なお、当期（2019年10月～2019年12月）の平均為替レートは対ドルで108円（前年同四半期111円）、対ユーロで123円（前年同四半期128円）でした。

【経費】

経費は、22億4百万円（前年同四半期比+1.0%）で計画内で推移しました。

【特別利益】

政策保有株の売却等により、2億6千4百万円を計上しました。

【連結対象子会社】

東揚精測系統（上海）有限公司、東陽精測國際有限公司、TOYOTech LLC、PolyVirtual Corporation、北京普利科技有限公司

【2020年9月期 通期予想】

売上高 256億円、営業利益 19億円、経常利益 20億円、当期純利益 14億円、  
配当金1株あたり年38円（うち、中間配当 14円）

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社 東陽テクニカ

常務取締役 ととき しゅうぞう 十時 崇蔵

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:[toyo-ir@toyo.co.jp](mailto:toyo-ir@toyo.co.jp)

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。